



**•Tackle Guide**  
竿は胴がしっかりとして穂先がしなやかな物ならなんでもいいが、ヤリイカ竿かピシアン竿がおすすめ。全体的に軟らかい竿ではアタリを取りにくくなる。リールは中型電動にPE4号300メートルを巻いたものを使用する。



▲いつまで釣れ続くかわからないので釣行はお早めに

の胴つき3本バリ仕掛け。食い込み重視のムツバリと早掛け重視の丸カイスの2タイプがあるが、私は丸カイスタイプ

の仕掛けを選択。配られたサバの切り身を皮側からチョン掛けして投入した。投入後、仕掛けが指示ダナに着く前に竿先がブルブル震えだした。サバが先に食ってしまったようで上げてみると2尾のサバが付いていた。気を取り直して再投入すると今度はサバにつかまらず指示ダナに到達。出船前のアドバースどおり最初は何もせず待ってみるとコツコツとこじられるようなアタリ。ここで合わせずにさらに待っているとゴゴツとといった感触に変わり初ヒット。海面に姿を現したのは40センチ近い丸まると肥えた良型のカマスだ。タツクルにヤリイカ竿を使用したのだが、細いフォルムのカマスでもこの大きさになるとしっかり竿も曲がりいい引きを見せる。なるほどこれは面白い釣りだ。



▲良型のカマスは引き味もバワフルだ

く掛かってもハリが飲まれてハリス切れなんてこともある。合わせのタイミングは自分で試行錯誤しながらやってみよう(笑)とのこと。イメージとしてはエサ釣りのタチウオと合わせの感覚が似ているのだろうか? 全員の準備が済んだ6時15分。私を含む右舷5人、左舷4人の計9人を乗せて港を離れた。このときは風も波も非常に穏やかだったが、予報では10時ごろから南西強風が吹き大シケになるようで、早揚がりになってしまいかもと船長から話を聞いていた。短期決戦でどこまで数をのばせるだろうか。船は10分ほどポイントの

釣り開始から45分ほどでツ抜けを達成し、ある程度釣りを学んだところでカメラを保持して船内を回る。最初は大中小交じりと聞いていたが、釣れるカマスは良型が多い。「おー! かいねー!」これは揚がってからの楽しみだな」といった声があちこちで聞こえる。右舷トモ2番の八木沼満夫さんの釣りが目に留まり、しばらく見せてもらう。合わせのタイミングから取り込み、ハリ外しの動作やエサ付けまでが非常にスピーディー。釣れたサバをその場でさばいて切り身にしたものを使っていたので食いが変わるのか聞いてみたところ、「食いが変わるとかはないんだけど、エサ持ちがとにかくいいんだよね。数回掛け損ねてもエサが残ってるからそのぶん数をのばせるよ」と話してくれた。このまま風が持ちこたえてくれたらいいなあと思っていると、西側から白波が迫ってくるのを目視できた。「これは釣り続けるの厳しいだろうな」と船長。やがて強風とともに辺り一面ウサギが飛び始め大荒れと

**●船宿information**  
相模湾大磯港  
**恒丸**  
☎0463-61-3073  
(詳細は巻末の情報欄参照)  
▶料金=カマス乗合一人1万円(エサ付き、氷別)  
▶備考=予約乗合、6時集合。ほかアジへも出船

飯田 博船長



二宮沖のカマスは丸まると肥えたアカカマスばかり

シケが多いこの時期、どうしても困るのが釣り物の選定。何か面白そうなターゲットはないものかと調べていると相模湾でカマスが好調との情報を聞きつけた。25〜40センチ級がいい人で60本、好日に当たれば1束超えなんて日もあるという。冬期に釣れたカマスの一夜干しは私の好物の一つ。これはぜひ取材させていたきたいと2月1日、相模湾大磯港の恒丸へと向かった。

5時15分、船着き場前の受付にはすでに何名か到着して準備の真っ最中。受付でおかみさんにあいさつし、仕掛けと氷を購入してから船へと向かう。私は過去に堤防から投げサビキやソフトルアーなどでカマスを釣ったことはあるが、船からのカマス釣りは初めてだったので、飯田博船長に釣り方を聞いてみた。

**荒れ出すまでの短期決戦**

**数年ぶりの釣れっふり!?**  
**相模湾で極上カマス乱舞**

●相模湾大磯港発→二宮沖  
本誌編集部/黒澤尚人 Naoto Kurozawa

「海面からタナ取りしていったら、仕掛けが指示ダナまで落ちたらいったんそのまま待つ。アタリがなければゆっくり竿を起こして再びゆっくり下ろす。大抵はこの下ろしてくる最中にアタることが多いんだけど、アタリがなければ1〜2メートル仕掛けを下ろして同じように探ってみるといいよ」と聞いてみた感じでは釣り方自体はあまり難しくないうだ。「ただ、カマスはアタってから合わせるタイミングが難しいんだよ。エサをパクッて食うわけじゃないから即合わせしても掛からないし、待ちすぎるとエサだけ取られちゃう。運よ

「合わせのタイミングが肝心」  
周りでもカマスが次つぎと上がり始め、滑り出しは順調そう。見ている感じでは、上がってくるのはヤマトカマスではなくアカカマスのようだ。船長に聞くと、二宮沖の深場で最近釣れるのはアカカマスばかりだと教えてくれた。空が明るくなってくるとカマスの活性も上がってきたように、さきほどよりもペースが上がってきた。私も35〜40センチ級をポツポツと釣り上げるのができた。アタリはとにかく多いのだが、合わせのタイミングが難しくなかなかな掛からない。合わせが早いのかと思いつつ少し遅らせるとハリを飲まれてハリス切れなんていうこともある。この「ムズ面白さ」がカマス釣りのだいご味なんだと思うなと感じた。

**知得! 簡単! カマスの一夜干し**  
脂の乗ったカマスは炙りや天ぷらなどにしても非常に美味しく、皮はうま味が濃く白米との相性も最高。とくにおすすめなのは一夜干し。水1リットルに対し50グラムの塩を入れた漬け汁にカマスを1時間半ほど漬けたらキッチンペーパーで水気をしっかり切る。ピチットシートにのせて一晩冷蔵庫に寝かすだけで簡単な一夜干しができる。酒の肴にしてもよし。白米と一緒に食べたのもよし。カマスの魅力を堪能できるはずだ。

▼ピチットシートは隙間のないようにしっかりとくるむ

二宮沖に到着。船長から、「いいよーやってみて。水深210メートル。タナは170〜180メートルね」と釣り開始のアナウンス。使用した仕掛けは船宿特製の